教会を愛する者となる　　**エペソ 3:10〜13**

今日のメッセージのタイトルは「教会を愛する者となる」です。これには二つの意味があります。一つは教会はキリストのからだですからキリストを愛するという意味であり、もう一つはそのキリストのからだを形成しているのが兄弟姉妹、つまり私たちですから私たちが互いに愛し合うということが教会を愛するということになります。言い換えるとあなたを通して他の兄弟姉妹がキリストの愛を感じることになるというのです。他の人の愛を評価できても自分自身はキリストの愛を表せているでしょうか？パウロはそれが出来ました。その秘訣を見たいと思います。

さてエペソ人への手紙は、牢獄で書かれました。使徒パウロは、キリストを宣べ伝えたため、信仰に反対する人たちによってローマの地方総督に訴えられました。使徒パウロはその裁判でローマ皇帝に上訴したため、ローマに囚人として送られ、そこで牢獄につながれました。その牢獄の中で、パウロは、エペソ人への手紙、ピリピ人への手紙、コロサイ人への手紙を書きました。この三つの手紙は牢獄から書いた手紙なので、「獄中書簡」と呼ばれています。しかし、これらの手紙は、囚人が獄中から書いたものとは思えないほど、力に満ち、賛美に満ち、感謝に満ちています。「キリストのゆえに投獄されている」（ピリピ 1:13）「この奥義のために、私は牢にいれられています。」（コロサイ 4:3）などといったことばがなければ, とても「獄中書簡」とは分からないほどです。獄中にいたパウロは、他の人から慰めを受ける立場にあったのに、エペソ 3:13 では「私があなたがたのために受けている苦難のゆえに落胆することのないようにお願いします。」と、逆に他の人たちを励ましています。なぜ、パウロはそんなふうに言うことができたのでしょうか。それは、パウロが教会に与えられている「目的」と「権威」と「特権」とを知っていたからです。目的とは何のために教会が存在するのか？　権威とは教会は目には見えない隠れた力を持っているということ、そして特権とは特別な神からの恵みがあるということです。つまり教会は小さかろうが、弱弱しく見えたとしても神は教会を特別な存在とされているということです。そのことを見てゆきましょう。

先ず教会の目的についてです。パウロは、10 節の「教会を通して、神の豊かな知恵が示されるため」ということばで、教会の目的を教えています。「神の豊かな知恵」というのは、次の 11 節では「私たちの主キリスト・イエスにおいて実現された神の永遠のご計画」ということばで置き換えられています。「永遠の計画」とは、神が人類とその世界の救いのために立ててくださったご計画のことです。「永遠の計画」と言われているのは、神の救いの計画が、罪を犯した人間をとりあえずなんとかしなければと、あわてて立てた粗末な計画ではないからです。神は、永遠の昔から、人間の救いを計画しておられ、それは決して変わらない確かなものです。また、神の計画は、私たちに永遠にいたる救いを与えるものなので、「永遠の計画」と呼ばれています。

この「神の永遠の計画」は、「キリスト・イエスにおいて実現」しました。キリストは人となって地上に来られました。私たちの罪を背負って十字架で死なれました。三日目に復活し、それから四十日後に天にのぼり、父なる神の右の座に着かれました。今も、キリストはそこにおられます。キリストは、このことによって、救いを成就してくださいました。人間は、何千年という長い間、自分たちの救いを探し求めてきました。その結果さまざまな思想が生まれ、宗教が出来ました。しかし、イエス・キリストはその探求の旅にピリオドを打たれたのです。宗教や思想の始祖教祖たちは、「そこに道がある。そこを歩みなさい。そこに真理がある。それを手に入れなさい。そこにいのちがある。そこへ行きなさい。」と教えます。しかし、彼らは道を指し示すことはできても、また真理を指し示すことはできても、真理そのものを与えることはできません。いのちを指し示すことはできても、いのちを与えることはできないのです。しかし、キリストは言われました。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。」（ヨハネ 14:6）キリストご自身が、道そのものであり、真理そのものであり、いのちそのものなのです。教会の役割は、この

キリストの救いを人々に示すことにあります。エペソ 3:10 に「教会を通して、神の豊かな知恵が示されるため」エペソ 3:10 とあります。どのようにして、それを示すのでしょうか。まず第一に、私たちの「礼拝」によってです。人々は、私たちがこころから神を礼拝する姿を見て、そこに神がおられることを知るでしょう。第二に、私たちが、神の家族としての「まじわり」を保ち、互いに愛し合うことによってです。それによって人々はキリストが私たちひとりびとりを愛していてくださっていることを知るでしょう。第三は私たちが、キリストの「弟子」として成長していくことによってです。私たちには、言葉や活動によってだけでなくみずからの人格によってキリストを表わしていくという使命が与えられています。第四にしもべとなってする「奉仕」によって、キリストが主であることを示します。何故一文の得にもならないことのためにそこまでするのか？　その「何故」が人をキリストに導きます。こうやって教会は人々にキリストの救いを示すことができるのです。私たちは、自分の人生が、キリストの救いの中に表された神の豊かな知恵を示すためにあるのだということを知っているでしょうか。伝道は教会の誰かがやってくれるものではありません。私の生き方が教会のこれからの方向性に大きくかかわっているということを覚えたいと思います。

第二に、教会の権威について考えてみましょう。10 節に「これは、今、天にある支配と権威とに対して、教会を通して、神の豊かな知恵が示されるためであって」とありますが、この中の「天にある支配と権威とに対して」ということばの中に、キリストが教会に与えてくださった権威が表わされています。この文脈で使われている「天にある支配と権威」というのは、神に逆らい敵対する勢力を指しています。神の栄光、偉大な力という意味ではありません。エペソ 2:2 に「空中の権威を持つ支配者」ということばが使われ、エペソ 6:12 に「私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。」と書かれているように、エペソ人への手紙では「支配」や「権威」という言葉は、サタンとその勢力を表しています。神にさからい、人々をキリストの救いから遠ざけ、真実な教会を攻撃してくる見えない霊的な力について、聖書はいたるところで触れています。

サタンと悪霊にキリストの救いが示されるというのは、キリストが勝利するということを言っています。キリストによって救いは成就した。キリストを信じる者は、サタンの支配から解放されて、神に属するものとなったということを宣言しているのです。一般のビジネスの世界では、一方が得をして他方が損をするのでなく、両方が互いに利益を得る取引を心がけます。しかし、霊的な世界ではそれは通用しません。神にもサタン、どちらにも利益となることはないのです。聖書はサタンは取引する相手ではなく、神はサタンを滅ぼして、私たちを救ってくださるのです。教会はサタンに対して、悪霊たちに対して、またこの世の力に対して、すでに勝利し、これからも勝利していきます。主イエスは弟子たちに言われました。「あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。」（ヨハネ 16:33）「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。」（マタイ 28:18）教会には、キリストの、この権威が与えられているのです。それは、「ハデスの門もそれに打ち勝てません。」（マタイ 16:18）と主が言われた、陰府にも死にも打ち勝つ大きな権威です。教会に与えられているキリストの力を信じ、霊的な戦いに勝利していこうではありませんか。

第三は、教会に与えられた「特権」についてですが、教会に与られた特権とは何でしょうか。それは 12 節の「私たちはこのキリストにあり、キリストを信じる信仰によって大胆に確信をもって神に近づくことができるのです。」ということばに見ることができます。聖なる神と罪ある人間。そこには、人間の努力によっては越えることのできない大きな隔てがあり、深い淵がありました。しかし、キリストは、十字架の上で、私たちの罪をすべて引き受け、その血潮で私たちの罪を赦し、私たちを罪からきよめてくださったのです。キリストの十字架が、神と私たちとの間にかけられた橋となっているのです。そして、復活し

て父なる神の右の座に着いておられるキリストは、神に近づこうとする者のためにとりなしをしてくださっています。ヘブル 4:16 に「ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。」とあるように、私たちには、キリストによって神に近づくことができる特権が与えられているのです。

神は、キリストによってすでに私たちに近づいておられます。御子イエスを私たちのところに送ってくださったということは神が私たちのところに近づいてくださったということです。これは信じられないくらい大変なことを神はしてくださったのです。ですから今度は、私たちが神に近づく番です。イザヤ 59:1 は、「見よ。主の御手が短くて救えないのではない。その耳が遠くて、聞こえないのではない。」と言い、ヤコブ 4:8 は、「神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます。」と言っています。これも正確には「もう神はあなたのところに近づいて下さったのだから、今度はあなたが近づきなさい。」ということです。エペソ 3:12 で「私たちはこのキリストにあり、キリストを信じる信仰によって大胆に確信をもって神に近づくことができるのです。」とあるように、キリストを信じる信仰によって神に近づきましょう。

聖書は、私たちに、まず、ひとりびとりが、神に近づくように教えています。主イエスがしばしば寂しいところで、ひとりになって父なる神に祈られたように、私たちも、人から離れ、ひとりになって神に近づく必要があります。しかし、それと同時に、聖書は、教会がひとつになって、ともに神に近づくべきことも教えています。信仰によって神に近づこうと努力している者たちが礼拝に集まる時、神に近づこうとする思いとが共鳴して、「ともに」神に近づく喜びがあたえられるのです。さまざまな問題にふりまわされて落胆している時も、神に近づこうと集まった信仰者たちに励まされて、神に近づくことができるようになる、そんな経験を皆さんもされていると思います。釘が磁石にくっつくと、その釘もまた磁力を帯びて、他の釘をくっつけていきます。そのように、私たちが神に近づくことによって、ここに来る人たちもまた、神のもとへと吸い寄せられていくような教会であるようにと願っています。教会を愛するとはそういうことです。一人一人が自発的に神に目を向けることです。

パウロが、福音のゆえに投獄され、苦しみにあったように、教会もまた、純粋な福音を守り、それを宣べ伝えていこうとする時、さまざまなことがらに悩まされるでしょう。しかし、教会には、救いを求め、助けを求めて、神に近づくことができる特権が与えられています。神が教会に与えておられる「目的」を、その「権威」を、そして、その「特権」を思う時、私たちは、失望や落胆から救われ、「大胆に確信をもって」神に近づくことができ、神が喜んでくださる教会となることができるのです。ですから一人一人が教会を愛する者となるように祈りつつ歩みたいと思います。祈ります。